●エディション・シナプス　創業 25 周年記念特価販売●

イギリス女性史研究

洋書学術史資料目録

50%割引対象商品

プリンセス・ノヴェレット　全 6 巻＋別冊
ボーイズ・オウン・ペーパー 1879-1882 年　全 4 巻＋別冊
ボーイスカウトとガールスカウト運動の誕生　第 1 回：英国の初期文献・資料集成　全 4 巻＋別冊
ボーイスカウトとガールスカウト運動の誕生　第 2 回：米国の初期文献・資料集成　全 4 巻＋別冊
19 世紀英国家庭と子どものための職業読本　全 6 巻＋別冊
英国女性の初期旅行記：ロマン主義時代の記録　全 8 巻
帝国史のなかの子ども：19 世紀～ 20 世紀初頭の史資料復刻集成　全 4 巻
アジア系アメリカ人女性のフェミニズム：英文研究論文集成　全 4 巻
女性フェアリー・テイル作家復刻選集　全 4 巻＋別冊
エイダ・バリン著作集　14 タイトル・合本 4 巻＋別冊
ヴィクトリア期女性の「美とファッション」：同時代文献復刻集成　29 文献・合本全 6 巻
フェミニズムとキリスト教信仰：ヴィクトリア朝：20 世紀初頭文献集成　全 6 巻
20 世紀初頭の反フェミニズム文献　全 6 巻
英国モダニズム文学に描かれた女性参政権　全 6 巻
アイルランドのフェミニズム　全 5 巻
メアリー・ヘイズ編著　英国・ヨーロッパ女性伝記大事典　全 6 巻＋別冊
女子学園小説：18-20 世紀初頭英語圏作品復刻集成　38 文献・全 6 巻
西洋人女性の明治日本記：英文書誌事典　全 1 巻
英国人女性宣教師の日本　全 5 巻＋別冊
アメリカ人女性宣教師の日本　第 1 期：明治期編　13 タイトル・合本 5 巻＋別冊
アメリカ人女性宣教師の日本　第 2 期：大正・昭和初期編　14 タイトル・合本 5 巻＋別冊
英領インドと女性：18-20 世紀初頭の一次史資料集成　全 5 巻

Edition Synapse

ヴィクトリア時代女性のための大衆小説誌

プリンセス・ノヴェレット【復刻版】全６巻＋別冊解説

The Princess's Novelettes, Complete Story, Vol. 1-6 (March 1886 - January 1889)

Edited by **Edwin J. Brett**　＜ヴィクトリア朝少年・少女雑誌復刻シリーズ＞第３回配本

【監修・解説】川端有子（日本女子大学）　／　【協力】村上リコ

2017 年 2 月刊行　A4 判・全約 2,550 頁　ISBN: 978-4-902454-84-0

本体セット価￥~~138,000~~（＋税）　⇒　特価￥69,000-（＋税）

- ●ヴィクトリア朝時代、主に労働者階級の女性の間で人気を博した週刊誌『プリンセス・ノヴェレット』の創刊号より３年分（全６巻）全号の原寸復刻版。
- ●少年向けの読み物雑誌 *Boys of England* を成功させた編集者 Edwin J. Brett が、若い女性向けに 1886 年に創刊したペニー・マガジンで、各号に読み切りの小説１点と王室やセレブリティーに関する短いゴシップ記事を、多数のイラストとともに掲載。同時代の女性の手記などから、都市部だけでなく農村部でも広く回し読みされたことが知られる。
- ●ほとんどがロマンスにホラーやミステリの要素を加えたセンセーション・フィクションで、その後の少女向け大衆小説、ハーレクイン・ロマンスやライトノヴェルの系譜につながる。
- ● *Girls Own Paper* など中流階級向けの女性誌に対し、より大衆向けの市場をターゲットに広く流通したと考えられ、資料がわずかに散在するだけで、研究の対象になりにくかった労働者階級の女性の生活史・教育史研究の一次文献としても貴重。
- ●国内の大学図書館には所蔵がまったく確認されておらず、海外でも初期の巻をまとめて所蔵する図書館は非常に限られてている極めて入手の困難な文献。

【各巻内容】

Vol. 1: March 9, 1886 - August 31, 1886 (Vol. I # 1-26, incl. A Summer Number), 432 pp.
Vol. 2: September 7, 1886 - February 22, 1887 (Vol. II # 27-51, incl. A Christmas Number), 416 pp.
Vol. 3: March 1, 1887 - August 9, 1887 (Vol. III # 52-75, incl. A Summer Number), 416 pp.
Vol. 4: August 16, 1887 - January 31, 1888 (Vol. IV # 76-100, incl. A Christmas Number), 416 pp.
Vol. 5: February 7 - July 24, 1888 (Vol. V # 101-125, incl. A Summer Number), 416 pp.
Vol. 6: July 31, 1888 - January 22, 1889 (Vol. VI # 126 – 151, incl. A Christmas Number), 432 pp.

監修者の言葉

川端有子（日本女子大学）

『プリンセス・ノヴェレット』（*The Princess's Novelettes*）という雑誌は、エドウィン・J・ブレット（Edwin J. Brett 1827-95）が 1886 年から刊行し、労働者階級から中流階級の若い女性に非常に人気のあった短編小説を載せた週刊誌である。この雑誌の所在は、たとえば労働者階級の女性の手記や日記などから、題名は知られているが、今までほとんど研究されたことも、内容が吟味されたこともなかった。なぜなら、全世界でこの雑誌を一部でも所蔵しているのは十館程度の図書館にすぎず、大英図書館においてすら全巻を保存はしていないからである。国内の図書館ではまったく所蔵が確認されていない。

また、エドウィン・ブレットはもっぱら研究者の間で、少年読み物の編集者として知られている。彼は、「ペニードレッドフル」を刊行して、スリルとサスペンス、ホラーと冒険で少年たちを魅了し、また絶大な人気を誇っていた、宗教叢書協会発行の『ボーイズ･オウン･ペーパー』（*The Boy's Own Paper*, 1879-1967）の向こうをはった『英国の少年たち』（*The Boys of England*, 1866-99）の編集者として有名であり、二十一種類の少年向け読み物新聞を手がけたことは、つとに知られているが、少女向けの出版に手を染めていたことは、どの研究書や解説を見ても明らかにされていない。

この女性向けの読み物新聞は、おもに上流階級の世界を舞台にしたロマンスや、ロマンティックなミステリーなど、短編小説を一号につき一篇と、ちょっとしたゴシップ記事を一面載せ、一ペニーで売り出されており、そんな華やかな上流の生活とは無縁の、都会の女店員やメイドなどに広く愛読されていたようである。安価なわりには豊富な挿絵の質がかなり高く、ブレットは、若い女性読者を惹きつけるこつもよく知り抜いていたように思われる。

この雑誌の初期の巻の復刻により、今まで「中流階級でない」ため、「若い女性」向けであるため、二重に周縁化されて研究が進んでいなかった層への、ヴィクトリア朝文化研究のすそ野の拡がりが、大いに期待される。

ヴィクトリア朝少年・少女雑誌　復刻シリーズ第２回配本

ボーイズ・オウン・ペーパー 1879-1882 年

全４巻＋別冊（解説＆索引）

Boy's Own Papers Vol. 1 - 4

【監修・解説】川端有子（日本女子大学）　／　New Introduction: **Kimberley Reynolds**, University of Newcastle upon Tyne

2008 年 11 月刊行　A4 判（原寸）・約 3,300 頁・図版多数（一部カラー）ISBN 978-4-902454-18-5

本体セット価￥~~128,000~~-（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

【巻構成】
Volume 1: #1-37 (Jan. 1879 - Sept. 1879)　Volume 2: #38-89 (Oct. 1878 - Sept. 1880)
Volume 3: #90-141 (Oct. 1880 - Sept. 1881)　Volume 4: #142-194 (Oct. 1881 - Sept. 1882)

本書の特色

- **19 世紀英国で始まった子ども向け教養雑誌のなかで、圧倒的な人気を得た少年向け雑誌 *Boy's Own Paper* の最も稀覯な創刊号から 4 年間の 194 号を完全復刻**
- **マンガのような挿絵や連載小説、読者通信欄など、今日につながる少年向けの大衆メディアの原型を作った雑誌**
- **大英帝国の理想とする男児の啓蒙を目的とした本書はイギリス児童文学研究だけでなく、英国近代史、メディア史そして男性性の研究やジェンダー史の資料としても利用価値大**
- **監修者による解説と日本語主題付記索引が別冊に収録**

監修者の言葉

川端有子

1879 年 1 月 18 日、その後 1967 年まで続き、英語圏の少年たちに読み物を提供し続けた雑誌、『ボーイズ・オウン・ペーパー』（*BOP*）が創刊された。出版元は、日曜学校向けの宗教冊子や、子ども向けの雑誌出版で経験をつんだ福音主義系の宗教叢書協会（Religious Tract Society）。同様の雑誌がひしめくなか、*BOP* は、群を抜いて売り上げを伸ばし、創刊から 5 年以内には、25 万部の発行部数を誇る成功を収める。ふんだんに挿絵をあしらった連載小説、冒険談やスポーツ記事、ゲームや工作など、少年たちの興味関心を引く話題を惜しげもなく満載しながら、週にたった 1 ペニーという値段は、容易におこづかいで買える範囲であった。作文コンテストで優勝すれば賞金がもらえ、投稿が採用されれば名前が載る。印刷物が大量生産され、輸送され、消費される社会が整い、識字層の拡大により雑誌文化が花開いた 19 世紀末のイギリスで、*BOP* は、文字通り「少年自身」のメディアとして、今日のテレビや携帯に匹敵するコミュニケーションを提供したのである。

THE BOY'S OWN PAPER

No. 1.—Vol. I.　SATURDAY, JANUARY 18, 1879.　Price One Penny. ALL RIGHTS RESERVED.

MY FIRST FOOTBALL MATCH.

By an Old Boy.

It was a proud moment in my existence when Wright, captain of our football club, came up to me in school one Friday and said, "Adams, your name is down to play in the match against Craven to-morrow."

I could have knighted him on the spot. To be one of the picked "fifteen," whom glory it was to fight the battles of their school in the Great Close, had been the leading ambition of my life—I suppose I ought to be ashamed to confess it—ever since, as a little chap of ten. I entered Parkhurst six years ago. Not a winter Saturday but had seen me either looking on at some big match, or offener still scrimmaging about with a score or so of other juniors in a scratch game. But for a long time, do what I would, I always seemed as far as ever from the coveted goal, and was half despairing of ever rising to win my "first fifteen cap." Lately, however, I had noticed Wright and a few others of our best players more than once lounging about in the Little Close where we juniors used to play, evidently taking observations with an eye to business. Under the awful gaze of these heroes, need I say I exerted myself as I had never done before? What cared I for hacks or bruises, so only that I could distinguish myself in their eyes? And never was music sweeter

しかし宗教叢書協会は、単に少年たちに娯楽を提供するために、この雑誌を発行したわけではなかった。その重要な目的の一つには、やはり 1 ペニーで巷にはびこる「ペニー・ドレッドフル」と呼ばれる暴力的で扇情的な読み物の悪影響から、青少年を守る、という大義があったのである。現在もその名が残る有名な作家たち、たとえばバランタイン、ジュール・ベルヌ、コナン・ドイルらの書く「健全な」冒険小説や学校小説は、誠実で勇敢なクリスチャンの男性理想像を描きだし、わくわくさせながらも、少年たちの想像力を「正しい」方向へ導くことを期待された。「オモシロクテタメニナル」。ともすれば、共倒れになるこの二つの理念を掲げて成功した *BOP* は、あすをになう少年へ向けて「男らしさ」の理想を描き出す格好の媒体であっただろう。*BOP* の復刻は、イギリスの 19 世紀末から 20 世紀にいたる児童文学の研究にはもちろんのこと、社会変化に伴う男性性の理想、帝国の繁栄とその変容の歴史といった研究に、不可欠の一次資料となるはずである。

ボーイスカウトとガールスカウト運動の誕生

第１回：英国の初期文献・資料集成　全４巻＋別冊

Boy Scouts and Girl Guides in the UK － A Collection of Early Sources

(The Foundation of Boy & Girl Scout Movements, Series 1)

編集・解説】藤本茂生（帝塚山大学）

2012 年 6 月刊行　B5 判・約 1,550 頁　ISBN 978-4-902454-76-5

本体セット価~~￥78,000~~（＋税）　⇒　特価￥39,000（＋税）

● 20 世紀初頭の英国で始まり、米国や日本を含む世界へと国境を越えて広がったボーイスカウト、ガールスカウト（ガールガイド）運動の成立と初期の活動史を、同時代文献でまとめるシリーズ第 1 回配本。

●初回配本では英国の文献全 4 点を復刻集成し、第 2 回配本で米国の資料をまとめる。

●運動の創始者ロバート・ベーデン - パウエル自身が執筆し 6 分冊で刊行した『スカウティング・フォア・ボーイズ』と題するボーイスカウト最初のハンドブック、ベーデン - パウエルが妹アグネスと共著し『少女はいかにして帝国の建設を助け得るか』という副題をもつガールスカウト最初のハンドブック、そして英国ボーイスカウト、ガールガイドそれぞれの連盟が公式な活動史として出版した二つの著作を収録。

●イラスト、写真等も含め原著を忠実に復刻。

●編者の解説（日本語）に加え、日本のボーイスカウト運動の始まりを英文で紹介した戦前の稀覯なパンフレットを付録。

●英米児童文化・教育史の資料としてだけでなく、国境を越えたグローバルな観点から、20 世紀初頭の子どもと革新主義・帝国主義の関係、少年向けと少女向けの資料の対比からのジェンダー史研究、児童教育と環境保護との関係等々、今日の多様な研究テーマのための一次文献として活用可能。

◆収録文献◆

VOL. 1:
Preface by Shigeo Fujimoto

Baden-Powell, Robert
Scouting for Boys: A Handbook for Instruction in Good Citizenship, Part I-VI
London: Horace Cox, 1908, c. 425 pp.

VOL. 2:
Baden-Powell, Agnes, and Robert Baden-Powell
The Handbook for Girl Guides, or How Girls Can Help to Build the Empire
London: The Girl Guides Association, 1912, c. 475 pp.

VOL. 3:
Wade, Eileen Kirkpatric
Twenty-One Years of Scouting:
The Official History of the Boy Scout Movement from Its Inception
London: C. Arthur Pearson Ltd., 1929, c. 345 pp.

VOL. 4:
Kerr, Rose
The Story of the Girl Guides
London: The Girl Guides Association, 1932, c. 300 pp.

別冊：－解説（藤本茂生）
－大日本少年團聯盟編（Dai Nippon Shonendan Renmei, ed）
Scouting in Japan for Fifteen Years
Imperial Headquarters of Boy Scouts of Japan, 1937, c. 15pp.
- The Boy Scouts, Chapter CCLIII of *The Times History and Encyclopaedia of the War*
London: The Times Publishing Company, 1918, c. 38pp.

ボーイスカウトとガールスカウト運動の誕生
第２回：米国の初期文献・資料集成　全４巻＋別冊

Boy Scouts and Girl Guides in the USA － A Collection of Early Sources

(The Foundation of the Boy & Girl Scout Movements and Girl Scouts, Series 2)

【編集・解説】藤本茂生（帝塚山大学）

2015 年 4 月刊行　A5 判・約 1,800 頁　ISBN 978-4-902454-77-2

本体セット価￥~~98,000~~-（＋税）　⇒　特価￥49,000-（＋税）

● 20 世紀初頭の英国で始まり、米国や日本を含む世界へと国境を越えて広がったボーイスカウト、ガールスカウト運動の成立と初期の活動史を、同時代文献でまとめるシリーズの第 2 回完結編。

●英国編に続く第 2 回配本では米国での資料 7 点を収録し、英米編合計全 8 巻に英米でのスカウト運動の起源と初期の活動に関する同時代の主要史資料を網羅。イラスト、写真等も含め原著を忠実に復刻。編者の詳細な解説を別冊に加える。

●第 2 回米国編には、米国で最初に使われたボーイスカウトとガールスカウトの「ハンドブック」とスカウト連盟関係者自身が著した草創期の歴史書に加え、スカウトを含む青少年や女子社会事業全体に関する同時代の文献を収録し、より客観的な視点からも初期の活動を概観しその評価を可能にする。

●英米児童文化・教育史の資料としてだけでなく、国境を越えたグローバルな観点から、20 世紀初頭の子どもと革新主義・帝国主義の関係、少年向けと少女向けの資料の対比からのジェンダー史研究、児童教育と環境保護との関係等々、今日の多様な研究テーマのための一次文献として活用可能。

【収録文献】

Vol. 1: c. 360 pp.
Seton, Ernest Thompson
Boy Scouts of America: Official Handbook
New York: Boy Scouts of America, 1910, c. 192pp.

How Girls Can Help Their Country (Handbook for Girl Scouts)
New York: Girl Scouts of United States of America, 1917, c. 154pp.

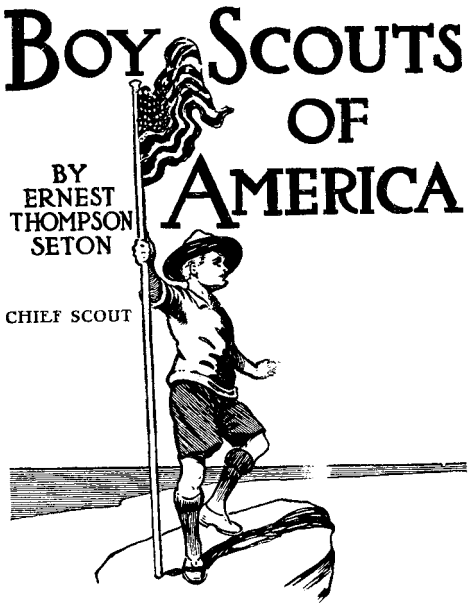
Vol. 2: c. 580 pp.
Murray, William D
The History of the Boy Scouts of America
New York: Boy Scouts of America, 1937, c. 574pp.

Vol. 3: c. 310 pp
Forbush, William Byron
The Boy Problem: A Study in Social Pedagogy
Boston: Pilgrim Press, 1902, c. 207pp.　[4th edition] (1st edition in 1901)

McCormick, William, 1866-1923
The Boy and his Clubs, ... with a Foreword by Thomas Chew
New York & Chicago: Fleming H. Revell Co., 1912, 96 p.

Vol. 4: c. 500 pp.
Wright, Katharine O.
Twenty-Five Years of Girl Scouting, 1912-1937
New York: Girl Scouts of United States of America, 1937, c. 107pp.

Ferris, Helen Josephine
Girl's Clubs, Their Organization and Management: A Manual for Workers
New York: E.P. Dutton, 1918, c. 383pp.



帝国史のなかの子ども

—19 世紀～ 20 世紀初頭の史資料復刻集成—　全４巻

Children and Empire

Edited and Introduced by Cheryl M. Cassidy & Andrea Kaston-Tange, Eastern Michigan University, USA

2012 年 12 月刊行　234 x 156 mm・約 1,600 頁　ISBN 978-4-86166-176-1

本体セット価￥~~88,000~~-（＋税）　⇒　特価￥44,000-（＋税）

- **●好評既刊『女性と大英帝国』に続く帝国史関連一次文献集成の第２弾**
- **●英米を中心に子どもと帝国主義に関わる多様な史資料 180 点弱を復刻収録**
- **●子どものありかたが大きく変わった１９世紀における、国家の理想とする子ども像や国家間の差違、身体、育児、教育、道徳、遊び、労働、移民、キリスト教宣教など多様な問題に同時代の文献でせまる画期的資料集**
- **●同時代の新聞・雑誌記事、書籍からの抜粋に加え広告、写真図版も多数掲載。編者による詳細な解題付**

■各巻構成■

Volume 1: The "Civilizing" Mission: Education, Morality and Conversion
Volume 2: Management of Children: Life in Sickness and in Health
Volume 3: Migrations and Cultural Differences: Children throughout the Empire
Volume 4: Empire's Children at Home: The Domestic Impact of a Presence Abroad

※収録文献の詳細は、**http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-176-1.html** でご覧いただけます。

アジア系アメリカ人女性のフェミニズム

－英文研究論文集成－　全４巻

Asian American Feminisms

【編集・解説】Leslie Bow, Professor, University of Wisconsin

2012 年 9 月刊行　c.1,600pp.　ISBN 978-4-86166-133-4　**本体セット価￥~~95,000~~-（＋税）　⇒　特価￥47,500-（＋税）**

公民権運動や、様々な領域で女性の権利を求める運動が高まった 20 世紀のアメリカでは 人種やジェンダーに関する研究が飛躍的に拡大します。そのなかでアジア系アメリカ人女性に関する先鋭的な研究も数多く発表され始め、今日では、ほとんどの北米の主要大学が、アジア系アメリカ人と女性研究のコースを有するようになっています。しかしながら、いくつかのアジア系アメリカ人を広く扱った出版シリーズなどはあるものの、このテーマを深くかつ包括的に網羅した基本文献集は未だ出版されておりません。

Betrayal and Other Acts of Subversion: Feminism, Sexual Politics, Asian American Women's Literature (Princeton 2001) や 'Partly Colored': Asian Americans and Racial Anomaly in the Segregated South（forthcoming, New York University Press 2010）などの著作で知られ、このテーマの第一人者である Leslie Bow の編集による本論文は、アジア系アメリカ人女性研究を 4 つの項目に分類、1970 年代から今日にいたる主要な先行論文 70 点は弱を収録、編者の解説が書き下ろされます。アジア系アメリカ人文化の研究と教育を始め、人種、ジェンダー研究やより広く現代アメリカ研究の必携文献集としてお奨めいたします。

※収録文献の詳細は、http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-133-4.html でご覧いただけます。

女性フェアリー・テイル作家復刻選集

オーノワ夫人 / アン・サッカレー・リッチー / メアリー・ド・モーガン

全４巻＋別冊日本語解説

Literary Fairy Tales by Women Writers

【監修】松村昌家／ 【編集・解説】村井まや子（神奈川大学）

2010 年 9 月刊行　A5 判・約 1,860 頁（白黒図版多数）　ISBN 978-4-902454-66-6

本体セット価 ~~￥98,000~~ -（＋税） ⇒ 特価￥49,000-（＋税）

英国の読者に最も古くから親しまれた文芸フェアリー・テイルを著したフランスのオーノワ夫人、オーノワ夫人に直接的な影響を受けた、英国のアン・サッカレー・リッチーに加え、モリス、ラスキン、ロセッティ兄妹などラファエル前派との家族ぐるみの交流のなかで育ち、ヴィクトリア時代の女性の視点から辛辣な社会批判に満ちた幻想物語を創造したメアリー・ド・モーガン。これら３作家の主要作品を網羅する復刻文献集です。ウィリアム・ド・モーガン、ウォルター・クレインなどによる貴重な挿絵も多く含みます。近年再評価の進む、近代フェアリー・テイル文芸の発展と、女性作家が果たした役割を考察する上で欠かせない作品群であり、児童文学研究のみならず、女性史・社会史・比較文化の研究にもお薦めいたします。

◆収録内容◆

VOL.1 (c.530 pp.)
Madame d'Aulnoy,
'The Tales of the fairies'
(Chap. IV of ***The Diverting Works of the Contess d'Anois***,
2nd edition), London: John Nicolson, 1715

De Morgan, Mary,
On a Pincushion, and Other Fairy Tales,
London: Seeley, Jackson & Halliday, 1877
(with Illustrations by William de Morgan)

VOL.2 (c.465 pp.)
De Morgan, Mary,
The Necklace of Princess Fiorimonde, and Other Stories,
London: Macmillan & Co.,1880 (with Illustrations by Walter Crane)

De Morgan, Mary,
The Windfairies,
London: Seeley & Co., 1900 (with Illustrations by Olive Cockerell)

VOL.3 (c.430 pp.)
Ritchie, Anne Thackeray,
Bluebeard's Keys and Other Stories,
London: Smith, Elder & Co., 1874

VOL.4 (c.440 pp.)
Ritchie, Anne Thackeray,
Five Old Friends and a Young Prince,
London: Smith, Elder & Co., 1868
(with Illustrations by Frederick Walker)

エイダ・バリン著作集

【復刻集成】14タイトル・合本4巻

Ada S. Ballin:
Motherhood Childhood and “Baby, The Mothers’ Magazine”

【編集・解説】三井（山本）淳子（津田塾大学）

2011年4月刊行　A5判・約1820頁　ISBN 978-4-902454-63-5

本体セット価￥~~88,000~~-（＋税）　⇒　特価￥44,000-（＋税）

ヴィクトリア時代の育児論

健康推進、育児、幼児教育のエキスパートとしてヴィクトリア後期の英国で活躍したエイダ・バリンの著作の初めての集成（復刻版）です。大英帝国が繁栄を続けるこの時代、産業革命による社会の変革に加え、科学の進歩や進化論思想の広がりは、育児や社会に求められる母親のありかたにも大きな変化が生じていました。ロンドン大学（UCL）にて公衆衛生学を学んだバリン（Ada S. Ballin, 1863-1906）は、科学的な子育てや乳幼児の健康管理を広く提唱し、母親向けの雑誌 *Baby, An Illustrated Monthly Magazine for Mothers* を創刊、この雑誌を基盤に Baby’s Exhibition を開催するなど、英国中流家庭に発言を続けました。ちょうど、バリン自身も講演した国際健康博覧会が1884年にロンドンで開催されるなど、衛生問題や健全な子育てに関心が高まっていた19世紀後半の英国で彼女の活動は広く受け入れられ、*Baby* 誌も35年に亘り刊行が続きます。

19世紀から20世紀にかけての英国での母親像の変化や母子に関わる衣食住環境の近代化について、あらたな視点をあたえてくれる資料集です。

【収録内容】

VOLUME 1:　Introduction by Junko MITSUI -YAMAMOTO
Children’s Dress. A lecture, etc.
W. Clowes & Sons: London, 1884, [International Health Exhibition Lectures, 1884, vol. 1] pp.27
The Science of Dress in theory and practice. With ... illustrations.
Sampson Low & Co.: London, 1885, pp.xvi. 273

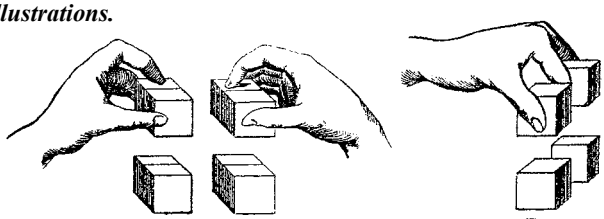


FIG. 34.　FIG. 35.

VOLUME 2:　***Personal Hygiene.***
F. J. Rebman: London, 1894, pp. xii. 227
BALLIN, Ada S., and WELLDON (Elinor A.)
The Kindergarten System explained.
London : F. L. Ballin, [1896], pp. vii, 132

VOLUME 3:　***From Cradle to School. A book for mothers.***
A. Constable & Co.: London, [1902], [Constable’s New Home Series] pp. vii. 344.
BALLIN, Ada S. (ed.) & PILLOW, H.
Nursery Cookery
London : F. L. Ballin, [1900], vii, 107,

VOLUME 4:　***Mothers’ Guide Series***. Office of “*Baby*,” etc.: London, [1896-1914]
No. 1: How to Feed our Little Ones
No. 2: Baths and Bathing
No. 3: Early Education
No. 4: Children’s Aliments
No. 5: The Expectant Mother
No. 6: Baby’s First Year
No. 7: The Skin Diseases of Childhood
No. 8: The Health Nursery

KINDERGARTEN TABLE.

ヴィクトリア期女性の「美とファッション」

―同時代文献復刻集成―　29 文献・合本全 6 巻

Women, Beauty & Fashion

Edited by Monika Pietrzak-Franger (University of Siegen, Germany)

総約 2,000 頁　ISBN: 978-4-86166-178-5　※プリント・オンディマンド版

本体セット価￥~~88,000~~（＋税）　⇒　特価￥44,000（＋税）

女性の「美とファッション」というテーマは、女性の身体性の変遷といった視点からだけでなく、文化史学や美学における「理想とする女性の美しさ」、社会経済史や産業史における「ファッション産業とその消費者としての女性」、医学史における「健康と身体美」、そして教育史での「女性の身体教育」など、異なる分野で極めて広範に研究が展開されています。本資料集は、女性の社会進出とともに女性の美しさとファッションの概念が大きく変わっていった英国 19 世紀～ 20 世紀初頭を対象に、この時代出版された多様な立場の著者による文献を幅広く収録、本テーマへの横断的なアプローチを可能にすることを目的に編集される復刻文献集です。

全体を “Personal Beauty and Care”、“Beauty, Fashion and Health” 、“Beauty Education and Self-Management” という 3 つの大項目に分類し、各テーマ年代順に文献を配列することにより、参政権運動など女性史に沿いながら、それぞれの時代の女性の美やファッションに対する意識や社会通念の変化を、同時代の文献で追ってゆきます。

今まで紹介されたことのないパンフレットや稀覯書を多数含み、女性史だけでなく、家政学（服飾史）、教育史（女性教育）から経済史、文学・文化史研究にいたるまで、非常に有用な一次資料集です。

CONTENTS

Volume 1: Personal Beauty and Care
Volume II: Personal Beauty and Care (continued)
Volume III: Personal Beauty and Care (continued)
Volume IV: Beauty, Fashion and Health
　Part 1: Beauty vs. Fashion
　Part 2: Corsetry
Volume V: Beauty, Fashion and Health (continued)
　Part 3: Dress Reform
Volume VI: Beauty Education and Self-Management
　Part 1: Beauty and (Physical) Education
　Part 2: Self-Management, Economy and Women Consumer

フェミニズムとキリスト教信仰：

ヴィクトリア朝～20世紀初頭文献集成　全6巻

Women and Belief, 1832-1928

残部僅少

【編集・解説】**Jessica Cox**, University of Wales Lampeter

2012年10月刊行　約2,750 pp.　ISBN 978-4-86166-128-0　本体セット価￥~~128,000~~-（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

西洋での女性の歴史のなかで、女性の解放と宗教信仰の関係の重要性は以前より言及されて来ましたが、最近より専門的学術研究のテーマとして論じられ始めています。本コレクションは女性運動が始まり、社会に広がったヴィクトリア朝時代から20世紀初頭まで、この問題につき論じた文献を書籍、雑誌記事、パンフレット類から選書し復刻で収録します。女性運動家、社会改革家、思想家、神学者、歴史家、経済学者、人類学者、心理学者などによる政治・宗教的論争、教会の説教、風刺小説、伝記、作法書等々多様な文献により、この時代の女性達の政治・社会的権利を求める信念と宗教上の信仰の間の葛藤を、あらゆる歴史的側面から探り、フェミニズムの発達の過程を明らかにします。対象とするのは英国からアメリカ、カナダ、そして植民地インドでのイスラム、ヒンドゥー、仏教に関する史・資料も含みます。編者による総合解説と、各巻毎により詳細な文献解題と著者に関する伝記的注釈が加えられます。

◆収録文献明細◆

VOLUME I: General Introduction / Introduction & biographical notes.
Kavanagh, Julia. *Women of Christianity, exemplary for acts of piety and charity ... with portraits*.(London, 1852).

VOLUME II: Introduction & biographical notes.
1. Lee, Luther, *Woman's right to preach the Gospel* (1853).
2. Folio, Fred, *A Book for the Times: Lucy Boston, or, Woman's rights and spiritualism: illustrating the follies and delusions of the nineteenth century* (New York: J.C. Derby, 1855), including illustrations

VOLUME III: Introduction & biographical notes.
3. Landels, William, *Woman's sphere and work, considered in the light of scripture. A book for young women* (London: James Nisbet and Co., 1859).
4. Kay, William, *The Influence of Christianity on the position and character of Woman: A sermon* [on Romans xvi.1] (Calcutta, 1859).
5. Booth, Catherine Mumford, *Female ministry: or, woman's right to preach the Gospel* (London, 1859).
6. Seymour, Richard, *Woman's work: a speech delivered in the Lower House of Convocation on Tuesday, July 19, 1861* (London, 1862).
7. Armstrong, I.T., *Plea for modern prophetesses* (Glasgow, 1866).
8. Anon, *Female Franchise. Have Women Immortal Souls? The popular belief disputed. ... By a Clerk in Holy Orders* (London, 1868).

VOLUME IV: Introduction & biographical notes.
9. Bushnell, Horace, *Women's Suffrage: The Reform Against Nature* (1869).
10. Stagg, Annie Rollo, *The importance of religion to woman* (Stratford, Ont.? : s.n.], 1875).
11. Mandley, J. G., *Woman outside Christendom. An exposition of the influence exerted by Christianity on the social position and happiness of women* (London, 1880).
12. Machardie, Elizabeth, *What is Spiritualism? A paper read at the Annual Conference of the Christian Women's Union, held in Glasgow* (London, 1884).
13. Samson, Louisa, *Why women should be secularists* (London, 1891).

VOLUME V: Introduction & biographical notes.
14. Soulsby, Lucy Helen, *Religious Education for Women* (1894).
15. Stanton, Elizabeth Cady, Preface and Introduction to *The Woman's Bible* (1895).
16. Kare, B.H., *How is Woman treated by Man and Religion?* (Bombay, 1896).
17. Burt Gamble, Eliza, *The God-Idea of the Ancients or Sex in Religion* (1897), extract from conclusion.
18. Tyack, Lena, 'Joyce Maxwell's Mistakes' (1899).
19. Dietnick, Ellen Battelle, *Women in the Early Christian Ministry* (1897).
20. Gould, Frederick James, *Will women help? An appeal to women to assist in liberating modern thought from theological bonds* (London, 1900).
21. Dixie, Florence Caroline, "Towards freedom: an appeal to thoughtful men and women" *The Agnostic Journal* (London, 1904-5).
22. Hickey, Emily. *Thoughts for creedless women* (London, 1906).

VOLUME VI: Introduction & biographical notes.
23. Mordecai, Margaret. *Phases of Progress. A study of the evolution of religion, education and woman* (London & Edinburgh: Sands & Co., 1910).
24. Bushnell, Katherine. *God's Word to Women* (1910).
25. Keating, Joseph, S.J., "Christianity and 'Woman's Rights.'" [Catholic Social Guild Pamphlets. no. 16] (London: Catholic Truth Society, 1912).
26. Collegium, *The religious aspect of the women's movement: being a series of addresses delivered at meetings at the Queen's Hall, London, on June 19, 1912* (London : Collegium, 1912).
27. Ali, Syed Ameer, *The Legal Position of Women in Islam* (1912).
28. Despard, Charlotte, Theosophy and the woman's movement [Riddle of life series; no. IV] (London:Theosophical Publishing Society, 1913), including illustrations
29. Cohen, Chapman, *Woman and Christianity: The Subjection and Exploitation of a Sex* (London: The Pioneer Press, 1919).
30. Whitehead, George, *Religion and Woman* (London: Secular Society, 1928), extract from Chapter II.

20 世紀初頭の反フェミニズム文献　全 6 巻

Anti-Feminism in Edwardian Literature

残部僅少

【編集・解説】**Lucy Delap** and **Ann Heilmann**, University of Wales, Swansea

2006 年 3 月刊行　ISBN 978-4-901481-88-5　本体セット価￥~~128,000~~-（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

英国の反フェミニズム文献をまとめる復刻資料シリーズ第 2 回配本は、20 世紀初頭の英国にて発表された文芸作品や様々な反フェミニズム評論と雑誌記事計 11 点を集成。女性参政権に反対したことでも知られるこの時代の代表的女性小説家 Humphry Ward の反離婚小説、社会主義者・マルクス主義者からのフェミニズム批判論、英国植民地女性の反フェミニズム言説、優生学の立場からのフェミニズムへの反論等々、この時代の様々な社会の側面に影響を与えはじめていたフェミニズムに相対した、多様な立場の同時代人の危機感が、これらの文献から読み取れます。女性学、女性史研究だけでなく、広く 20 世紀初頭の社会学や文学、モダニズム研究に興味深い一次資料集です。詳細な解説が付されています。

【収録内容】

第１巻：［ 反離婚小説 ］
Mrs Humphry Ward, D***aphne or, Marriage à la Mode*** (London: Cassell, 1911).

第２巻：［ 社会主義・進歩主義者の反フェミニズム論 ］
Belfort Bax, three chapters from ***Essays in Socialism: New and Old*** (London, Grant Richards, 1906).
Frederic Harrison, four essays from ***Realities and Ideals*** (London: Macmillan and Co, 1908).
Gasquoine Hartley, ***The Truth About Women*** (London: Eveleigh Nash, 1913).

第３巻：［ 雑誌に掲載された文芸作品および英国植民地におけ女性の反フェミニズム ］
W. H. Mallock, 'Women in Parliament', ***Nineteenth Century and After***, July 1912.
'The Suffragettes', ***Dominica Chronicle***, May to October 1913 (with an introductory note and annotations by Sue Thomas).
Ardeshir Ruttonji Wadia, ***Ethics of Feminism*** (London, G. Allen & Unwin, 1923).

第４巻：［ フェミニズム論への同時代の反論 ］
Ethel Colquhoun, ***The Vocation of Woman*** (London, Macmillan, 1913)

第５巻：［ 反女性参政権および母性・生命礼賛の反フェミニズム思想 ］
Marie Corelli, ***Woman or Suffragette? A Question of National Choice*** (London: C. Arthur Pearson, 1907). (40pp)
Arabella Kenealy, Feminism and Sex Extinction (London: Fisher Unwin, 1920). (313pp)

第６巻：［ 男性作家の女性論 ］
Arnold Bennett, ***Our Women: Chapters on the Sex-Discord*** (London: Cassell, 1920). (264pp.)

英国モダニズム文学に描かれた女性参政権

全 6 巻　Women's Suffrage Literature

残部僅少

【編集・解説】**Katharine Cockin**, University of Hull, **Glenda Norquay**, Liverpool, John Moores University & **Sowon Park**, Corpus Christi College, Oxford University

2007 年 1 月刊行　c. 2600pp.　ISBN 978-4-86166-046-7　本体セット価￥~~138,000~~-（＋税）　⇒　特価￥69,000-（＋税）

- 女性参政権運動が一般に広がった英国 20 世紀初頭の文学、演劇作品集
- ６編の長編小説と雑誌などに発表された短編や戯曲など約 50 の作品を復刻集成
- 全ての作品を抜粋でなく全文掲載
- 女性参政権論者による作品だけでなく、反参政権側の作品も収録
- 女性作家の団体＝ Women Writers' Suffrage League や、女優の団体＝ Actresses' Franchise League など異なる立場の女性参政権運動団体にも配慮し、今日の研究に必要な作品を限りなく広く網羅
- モダニズムや自然主義の文学とフェミニズム、ジェンダー、政治問題との関係を探るためのまたとない一次資料集
- 各巻毎に編者による詳細な解題入り

アイルランドのフェミニズム

【復刻文献集成】 全５巻

Irish Feminisms, 1810-1930

残部僅少

【編集・解説】**Mary Pierse** and **Ann Walsh**, University College Cork, Ireland

[ES Series: Historical Sources on Women's Studies]

2010 年 1 月刊行　c. 2,500pp.　ISBN 978-4-86166-113-6

本体セット価￥~~118,000~~-（＋税）　⇒　特価￥59,000-（＋税）

アイルランドにおける近代フェミニズムの誕生から その変遷を追う、初めての一次資料復刻集

ヴィクトリア朝期からモダニズム期にいたる著作を、文学、思想、政治など様々なバックグラウンドを持つ作品から広く選書し、フェミニズムという多様な思想が、政治、宗教的にも複雑な位置にあり続けたアイルランドの社会、文化の中にいかに築かれていったのかを探るための、他に例のない史資料集です。収録する文献は単行本著作の抜粋やアイルランドでこの時代に発行されたパンフレット、雑誌、新聞記事などの一次資料を中心に、Lady Gregory、ALady Wilde(オスカー・ワイルドの母)、Parnells といった著名人の著作から無名の著者のものまで含みます。フェミニズムに対するアプローチの差異は、それぞれの著者の政治、宗教的背景により他の西洋諸国よりさらに色濃く出、アイルランド女性の置かれていた状況を時代の変遷とともに読み解くことを可能にします。収録される文献はほとんどが日本だけでなく海外図書館でも入手の不可能な文献ばかりです。

各巻以下の分野別構成で、各分野毎に詳しい解説が編者より書き下ろされています

Volume I: Leading the Way
「フェミニズム思想の潮流」

Volume II: Land and Labour
「アイルランド土地戦争時代の政治変動と女性土地同盟」

Volume III: Eire Abu? - Ireland Forever ?
「新たなアイルランド社会のなかでの女性」

Volume IV: In the Real World
「アイルランド女性の社会、教育、性、結婚、宗教」

Volume V: Literary Approaches
「アイルランド文学者のフェミニズム」

＊収録文献の明細は
http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-113-6.html
でご覧いただけます。

メアリー・ヘイズ編著

【復刻版】 英国・ヨーロッパ女性伝記大事典

全６巻＋別冊日本語解説

残部僅少

Female Biography;

or, Memoirs of Illustrious and Celebrated Women, of all Ages and Countries by Mary Hays

【別冊日本語解説】青山学院女子短期大学　梅垣千尋

2004 年 6 月刊行　底本 : 1803 年刊初版　全 2709 頁 ISBN 978-4-902454-01-7

本体セット価 ~~￥118,000-~~（＋税）　⇒　特価￥59,000-（＋税）

フェミニストの視点で編集された世界で初めての女性史レファレンス

本書の特色

- ●世界初の「女性による、女性のための、女性についての」大事典
- ●西洋史に登場する約 290 名の女性を網羅
- ●ウルストンクラフトの親友ヘイズの編著

メアリ・ウルストンクラフトが女性の「理性」に期待をかけたフェミニストであったとすれば、その親友メアリ・ヘイズは、女性の「情念」に大きな意義を見いだしたフェミニストであったといえる。これまでウルストンクラフトの影に隠れてきたヘイズの存在は、その独創的な著述活動と特異な歴史的経験によって、近年新たな注目を集めつつある。

　このたび復刻出版される本書は、ウルストンクラフト亡き後、ヘイズが保守派の集中的な攻撃にさらされるなかで執筆したものである。女性偉人を取りあげた書物は、イギリスではすでに 18 世紀中葉から見られるが、本書ほどの大著は過去に例がない。ヘイズがここで特に力を入れて描いたのは、クレオパトラからエカテリーナ 2 世にいたるまで、政治や哲学といった「男性的」とされる活動領域に比類のない情熱を傾けた女性たちであった。

　本書を貫くのは、過去に生きた無数の女性たちが、ときには英雄的な活躍や悲劇的な受難によって歴史を動かしてきたことを証明しようとする強靭な意志である。女性史の意味を、その根源から問いかける古典的労作であることは間違いない。

青山学院女子短期大学　梅垣千尋

■収録人名■（抜粋）

Adricomia
Agnes Sorrel (or Sorreille)
Agreda, Mary de
Albert, Jane D'
Aldrude, Countess of Berlinoro
Bacon, Lady
Basine (or Bazine)
Bavaria Isabella of
Baynard, Anne
Boleyn, Anne
Calphurnia, wife of Pliny
Calpurnia, wife of Julius Caesar
Capello, Bianca
Carolina, wife to George II
Catherine I of Russia
Catherine II of Russia
Catherine of Aragon
Catherine of Medicis
Cromwell, Elizabeth, wife of Oliver
Dacier, Madame
Damophila
Dante, Theodora
Derby, Countess of
Desmond, Countess of
Dido, Queen of Carthage
Didyma
Egee, Queen of the Amazons
Elizabeth, Queen of England
Elizabeth, Countess of Lincoln
Elstob, Elizabeth
Emma, Queen of England
Estrada, Maria d'
Ethelfleda, Queen of England
Eurydice
Fannia
Fidele, Cassandra
Fielding, Sarah
Galligal Leonora
Gethin, Lady Grace
Gonzaga, Cecilia de
Gonzaga, Eleonora
Gonzaga, Isabella de
Gray, Lady Jane
Guyon, Madame
Harcourt, Harriet Euseria
Hardwick, Elizabeth
Hastings, Lady Elizabeth
Hyde, Ann
Hypatia
Inglis, Esther
Isabella, Queen of Hungary
Jane, Queen of France
Killigrew, Katherine
Labe, Louise
Lambrun, Margaret
Lane, Mrs. Jane
Leapor, Mary
Legge, Elizabeth
Macaulay, Mrs.
Maintenon, Madame de
Margaret de Valois,
Queen of Mary, Queen of Scots
Mary, Queen of Hungary
Octavia, wife to Marc Antony
Octavia, wife to Nero
Renata, Duchess of Ferrara
Rohan, Marie Eleonore de
Roland, Madame
Rufina, Claudia
Russel, Lady Elizabeth
Russel, Lady Rachel
Sappho
Scala, Alexandra
Scudery, Madeline de
Seguier, Anne de
Semiramis
Seymour, Lady Arabella
Sforza, Catherine
Sforza, Isabella
Sheridan, Mrs. Frances
Sophronia
Theano
Thymele
Tishem, Catherine
Toliet, Elizabeth
Tymicha
Valeria
Vigne, Anne de la
Warwick, Countess of
Weston, Elizabeth Jane
Zenobia

女子学園小説

18～20世紀初頭英語圏作品復刻集成　38文献・全6巻

Girls' School Stories in English, 1749–1929

残部僅少

【編集・解説】Kristine Moruzi, University of Alberta, Canada & Michelle J. Smith, University of Melbourne, Australia

2013年9月刊行　総約2,400頁　ISBN 978-4-86166-180-8

本体セット価￥~~118,000~~-（＋税）　⇒　特価￥59,000-（＋税）

英米文学研究、児童文化、女性史など様々な領域で関心の高まる、女子校を舞台とした小説の初の学術コレクションです。18世紀末に少女向けの道徳、宗教教育の一つの手段として英国で始まったこのジャンルの出版は、19世紀に入ると宗教色を薄め、学校生活のルール、理想的な女性像や女性の間の友情の教えなど、その目的や題材も変化します。女性教育の中流層への拡大や女性の社会意識の向上したこの時代、少女や若い女性向けの小説として英国内で人気が高まると同時にその影響は海外へも広がり、アメリカを始めカナダ、オーストラリアなど大英帝国植民地でも多くのこの分野の小説が発表され、1920年代頃にそのピークを迎えたとされています。

本コレクションはこの女子学園小説の系譜を年代順に追うと同時に、各巻それぞれの時代に特徴的なテーマの代表作品と同テーマの小説の抜粋や女性誌に掲載された短編小説をまとめ、発表時のテキストそのままに復刻します。英国だけでなく、アメリカやオーストラリア、カナダなど大英帝国植民地の作品も含め計38点を収録、この文学ジャンルの全体像を提示いたします。編者の詳しい解説を入りです。

●収録文献 ●※太字タイトルは全テキスト、その他は抜粋を収録。

Vol. I: MORAL EDUCATION

1. Sarah Fielding. *The Governess, or The Little Female Academy.* Dublin: 1749.
2. **Dorothy Kilner. *Anecdotes of a Boarding School; or, An Antidote to the Vices of Those Useful Seminaries*. Vol. I and II., 1790.**
3. Emma Worboise. "Chapter V", "Chapter VI", "Chapter VII." *Grace Hamilton's Schooldays*, 1856.
4. Grace Stebbing. "Mademoiselle Makes Hot Coffee." *That Aggravating School-Girl*, 1885.
5. Elizabeth Westyn Timlow. "Where is Hester?" and "Mrs Conway." *A Nest of Girls, or Boarding-School Days*, 1901.
6. Ethel Hume Bennett. "Putting It Through." *Judy of York Hill*, 1922.

Vol. II: THE NEW GIRL

7. Anon. "Chapter III." *The Boarding School; or, Familiar Conversations Between a Governess and Her Pupils, Written for the Amusement and Instruction of Young Ladies*, 1823.
8. **L.T. Meade. *Wild Kitty*. London: W & R Chambers, 1897. 364 pp.**
9. Agnes Adams, "Vic and the Refugee." *Australasian Girl's Annual* (1916).
10. Pamela Hinkson. "Marie." *Collins' Schoolgirls Annual* [1923?].

Vol. III: UNRULY FEMININITY

11. **Mary Hughes, *The Rebellious Schoolgirl*, 1821.**
12. Edis Seale. "Our Plot." *Maggie's Mistake: A Schoolgirl's Story*, 1874.
13. **Evelyn Sharp, *The Making of a Schoolgirl*, 1897.**
14. Raymond Jacberns (Georgiana Mary Isabel Ash). *The Girls of Cromer Hall*, 1905.
15. L.L. Weedon. *Madcap Molly*, 1903.
16. Katherine Newlin. "Teddy vs. Theodora." *Australian Girl's Annual* (1910).
17. Lilian Turner. "The Girl from the Back-Blocks" and "In Ambush." *The Girl from the Backblocks*, 1914.

Vol. IV: DUTY AND RESPONSIBILITY

18. Juliana Ewing. "Chapter XIII," "Chapter XIV," "Chapter XV," "Chapter XVI," "Chapter XVII," and "Chapter XVIII." *Six to Sixteen: A Story for Girls*. (1874). London: *George Bell*, 1886.
19. Angela Brazil. "The School Union." *The Patriotic Schoolgirl*, 1918.
20. **Elsie Jeanette Oxenham, *The Abbey Girls*, 1920.**
21. Margaret C. Field. "Out of Bounds." *Australian Girls Annual* (1925).
22. Jean Ashley. "A True Sport." *Our Girl's Annual 2* (1928).
23. Ethel Talbot. "A Guide and a Ghost." *Girl Guide Stories*, 1929.

Vol. V: FRIENDSHIP AND FUN

24. Anon. Little Pansy: *A Story of the School Life of a Minister's Orphan Daughter*, 1864.
25. Isabella Fyvie Mayo. "Aunt Winifred's Friends." Routledge *Every Girl's Annual 1*(1881).
26. **Louise Mack. *Teens: A Story of Australian Schoolgirls*. Sydney: Angus & Robertson, 1897. 266 pp.**
27. Jessie Graham Flower. "The Accident of Friendships." *Grace Harlowe's Plebe Year at High School*. Philadelphia: Henry Altemus, 1910. 7-18. 12 pp.
28. Marjorie Stanton, "The Girl Who Kept to Herself." *Schoolgirls Own Annual 1*(1923): 195-223. 29 pp.
29. Constance Mackness. "The Annual Dance." *The Glad School*. Sydney: Cornstalk Publishing, 1927. 125-34. 10 pp.
30. Mary Bourchier Sanford. "The Merry Maids of Meridel: A Story of Canadian School Life." *Schoolgirls Story Bumper*. ND, NP. 41 pp.

Vol. VI: HIGHER EDUCATION AND WOMEN'S RIGHTS

31. **SOLA (Olive San Louie Anderson). *An American Girl and Her Four Years in a Boys' College*, 1878.**
32. L.T. Meade. "Going Out in the World," "Why Priscilla Peel Went to St. Benet's," "College Life," "Two Extremes," and "'Come and Kill the Bogie.'" *A Sweet Girl Graduate*, 1891.
33. Abbe Carter Goodloe. "Revenge." *College Girls*, 1895.
34. Grace Stebbing. "The New Woman." *Young Woman 4* (1896).
35. L. Elliott. "Woman's Suffrage at St. Austin's." *Girl's Realm* 14 (1912)
36. Florence Bone. "The Blues and the Purples." *Margot's Secret, or, The Fourth Form at Victoria College*, 1911.
37. Jean Webster. "The Virgil Strike." *Just Patty*, 1911.
38. Beatrice Embree. "Jill at Work and Play." *The Girls of Miss Clevelands*', 1920.

西洋人女性の明治日本記
英文書誌事典　全１巻

Meiji Japan as Western Women Saw It
A Bibliographic Companion

Isabella Bird

編・著　Ronald D. Klein / ロナルド・クライン (元広島女学院大学教授)

2016 年 10 月刊行　B5 判・クロス装　約 345 頁（カラー図版・白黒写真入り）　ISBN: 978-4-902454-93-2
本体格：~~￥34,800~~（＋税）　⇒　特価￥17,400-（＋税）

●明治日本を著した西洋人女性約 200 名の詳しい人物情報と主著 600 点の解題、さらに雑誌記事や二次文献も含めた 1,200 件近い書誌情報をまとめた初の本格的英文書誌。

●著者を①旅行者、②キリスト教宣教師、③日本滞在者、④小説家に分類し、各項目にはその分野での西洋と日本との接触・関係史を詳説する序文が書き下ろされ、さらに原書カヴァーや挿絵のカラー図版や著者の肖像写真など視覚資料も掲載。

CONTENTS

Book Covers and Illustrations
General Introduction
Chapter I: Tourists and Travelers
[Travel Writers 40 / Annotations 45 / Bibliography 109]
Portraits of Women Travelers
Introduction
1.Victorian Women Travelers
2.Women Tourists and Travelers to Japan
3.Guide Books for Tourists
4.Varieties of Women Tourists and Travelers to Japan
5.Conclusion
Key Works by Women Tourists and Travelers
Part 1: Early Impressions—1860s and 1870s
Part 2: The Second Wave—1880s
Part 3: The Latecomers—1890s
Part 4: The Last Wave — 1900 to the End of the Meiji Era
Bibliography
Part 1: Works by Women Tourists and Travelers
Part 2: Secondary Sources
Part 3: Secondary Sources on Specific Authors

Chapter II: Missionaries
[Missionaries Writers 59 / Annotations 155 Bibliography 574]
Portraits of Women Missionaries
Introduction
1. Women's Work for Women Worldwide
2.The Protestant Church
3.The Roman Catholic Church
4.The Greek Orthodox Church
5.The Church Missionary Society
6.Other Christian Institutions
7.Women's Education
8.Social Services
9.Conclusion
Key Works by or about Meiji Women Missionaries
Part 1: Works by Missionaries
Part 2: Secondary Sources
Appendix 1: Early Women's Missionary Societies
Appendix 2: List of Annual Letters from the Field by CMS Missionaries
Appendix 3: Leading Missionaries in Women's Education
Appendix 4: Key Japanese Women Influenced by Missionaries
Appendix 5: Girls' Schools Founded 1870-1912

Chapter III: Sojourners
[Sojourners Writers 36 / Annotations 133 / Bibliography 159]
Portraits of Women Sojouners
Introduction
Key Works by Sojourners
Bibliography
Part 1: Works by Sojourners
Part 2: Secondary Sources

Chapter IV: Writers
[Writers (Authors) 74 / Annotations 286 / Bibliography 330]
Portraits of Women Writers
Introduction
Key Works by Writers
Bibliography
Part 1: Works by Writers
Part 2: Secondary Sources

Author Index

Mrs. Fraser

復刻シリーズ　西洋女性宣教師の語った日本

Japan as Seen by Western Women in Christian Mission

19 世紀末から 20 世紀初頭に日本を訪れたキリスト教女性宣教師（宣教師の妻も含む）らによる日本に関する書籍をシリーズ化し復刻するものです。

英米プロテスタントの海外伝道事業が組織化されていった 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけ、多くの女性宣教師が日本含むアジア諸国へ派遣されてゆきます。彼女たちは、各地で男性宣教師とは異なる社会的役割をにない活動を行いますが、日本においてもミッション・スクールの設立や運営に深く関わり、日本・アジアでの女性教育の成立に大きく貢献したことが知られています。教育者でもあった女性宣教師の内には、宣教活動の記録と同時に滞在した日本の文化や生活を、女性ならではの視線で記述し残した者も多く、それらは今日、日本の近代キリスト教史の史料としてだけではなく、教育史、女性史など幅広い日本の近代化や西洋との文化交流史、そしてまたジェンダー研究、英米帝国史研究のための文献として読み直されつつあります。

第 1 回は英国人女性宣教師の著作を収録、第 2・3 回は米国人女性宣教師の著作を年代順に出版いたしました。

第 1 回配本　英国人女性宣教師の日本　全 5 巻＋別冊解説

Japan as Seen by British Women in Christian Mission

【監修・解説】並河葉子（神戸市外国語大学准教授）

2009 年 11 月刊行　A5 判・約 2,250 頁　ISBN 978-4-86166-115-0

本体セット価~~￥118,000-~~（＋税）　⇒　特価　￥59,000-（＋税）

【収録内容】

VOLUME 1: (c. 410pp.)

Pitman, Mrs. Emma Raymond
Japan and Japanese - Extract from Central Africa, Japan and Fiji: A Story of Missionary Enterprise, Trials, and Triumphs, pp.103-196, London : Hodder and Stoughton, 1882, 95pp.

Butler, Annie R.
Stories about Japan, London : Religious Tract Society, 1888, 120pp.

Wilson-Carmichael, Amy
From Sunrise Land : Letters from Japan, London : Marshall Bros., 1895, 195pp

VOLUME 2: (c. 500pp.)

Page, Jesse
Japan: Its People and Missions, London: S. W. Partridge, 1895, 190pp.

Awdry, Frances
Daylight for Japan : The Story of Mission Work in the Land of the Rising Sun, London : Bemrose & Sons, 1904, 300pp.

VOLUME 3: (c. 525pp.)

Fisher, Gertrude Adams
A Woman Alone in the Heart of Japan,
London : Sisley's, 1906, 305pp.

Arnold, Miss Alfreda (comp.)
The Light of Japan, Church Work in the Dioceses of South Tokyo, Osaka and Kiushiu under the Church of England, Hartford : Church Missions Publishing Co., 1906, 213pp.

VOLUME 4: (c.500pp.)

Allen, Beatrice Julian
Our Sister Beatrice : Recollections of Beatrice Julian Allen and Her Letters / collected by her sister Grace Grier..., London : Longmans, Green & Co., 1907, 305pp.

Bickersteth, Mrs. Edward
Japan (*Handbook of English Church Expansion Series*)
London : A.R. Mowbray, 1908, 185pp

VOLUME 5: (c. 340pp.)

Ballard, Susan
Fairy Tales from Far Japan : translated from the Japanese; with a prefatory note by Mrs Isabella L. Bishop, London : Religious Tract Society, 1898, c.130pp.

Ballard, Susan
Jottings from Japan, Westminster: Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts, 1912, 105pp.

Ballard, Susan
More about Japan, Westminster: Society for the Propagation of the Gospel in Foreign Parts, 1915, 90pp.

第２回配本　アメリカ人女性宣教師の日本
第１期：明治期編　13 タイトル・合本５巻＋別冊解説
Japan as Seen by American Women in Christian Mission 1869-1910

【監修・解説】小檜山ルイ（東京女子大学教授）

2010 年 11 月刊行　A5 判・約 2,500 頁（図版白黒多数）　ISBN: 978-4-86166-116-7

本体セット価￥~~128,000~~-（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

英米プロテスタントの海外伝道事業が組織化されていった 19 世紀後半から 20 世紀初頭にかけ、多くの女性宣教師が日本含むアジア諸国へ派遣されましたてゆきます。彼女たちは、各地で男性宣教師とは異なる社会的役割をにない活動を行いますが、日本においてもミッション・スクールの設立や運営に深く関わり、日本・アジアでの女性の教育の成立に大きく貢献したことが知られています。教育者でもあった女性宣教師に課された重要な仕事の一つには、自分の宣教活動や体験を本国で伝道事業を支える女性たちに知らせるということがありました。そうした報告の一部は書籍となり、広く流通しましたが、活動の記録と同時に滞在した日本の文化や生活を、女性ならではの視線で記述し残した者も多く、それらは今日、日本の近代キリスト教史の史料としてだけではなく、教育史、女性史、など幅広い日本の近代化や西洋との文化接触の歴史、またジェンダー研究、英米帝国史研究のための文献として読み直されています。

第 2 回配本では、中国でのプロテスタント宣教に大きな功績を残した John Livingstone Nevius の妻 Helen が夫と共に訪れた日本の旅行記、横浜共立学園を設立した Mary Pruyn がアメリカの 3 人の孫たちに宛てた手紙形式で著された日本生活記、長老教会の宣教師として 8 年間日本で活動した Julia Carrothers が日本の女の子と男の子を主人公に庶民の生活を語った著作、東北学院第 2 代院長 Schneder の妻が語る仙台神学校での女子教育に協力した Miyamoto O Mura の生涯など計 13 点の著作を多くの図版も含め収録。

※収録文献の詳細は http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-116-7.html でご覧いただけます。

第３回配本　アメリカ人女性宣教師の日本
第２期：大正・昭和初期編　14 タイトル・合本５巻＋別冊解説
Japan as Seen by American Women in Christian Mission 1913-1934

【監修・解説】小檜山ルイ（東京女子大学教授）

2013 年 6 月刊行　A5 判・約 2,500 頁（図版白黒多数）　ISBN: 978-4-86166-117-4

本体セット価￥~~128,000~~-（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

第 3 回配本では、聖学院を設立したチャールズ・E・ガルストの妻による日本での宣教活動を中心とした夫の伝記、中国・日本で宣教したメアリ・バートンの日本の女性教育および職業女性に関する調査、アメリカン・バプテスト女性海外伝道協会長で社会改革者としても活躍したヘレン・バレット・モンゴメリの日本を含む海外宣教地の記録、東洋学園創立者宇田尚の妻宇田愛らとともに同仁キリスト教会女子寮ブラックマー・ホームや同仁美登里幼稚園で女子教育、幼児教育に力を注いだキャサリン・M・オスボーン、神戸女学院学院長も務めた宣教師シャーロット・B・デフォレスト、20 世紀初めアメリカン・ボードの宣教活動を行い、戦後同志社で教えまた国際基督教大学設立にも尽力した R.I. シーベリーらの著作を収録。当時の日本の生活や女子学校などの写真も多数含まれています。

※収録文献の詳細は、http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-117-4.html でご覧いただけます。

英領インドと女性

18 ～ 20 世紀初頭の一次史資料集成　全 5 巻

Women in Colonial India: Historical Documents and Sources

【編集・解説】Pramod K. Nayar, University of Hyderabad, India

2013 年 9 月刊行　総約 2,000 頁　ISBN: 978-4-86166-179-2　**本体セット価：~~￥128,000~~（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）**
※プリント・オンディマンド版

英国の支配が強まった 18 世紀から大英帝国のなかで植民地化の進む 19 世紀のインドには、数多くの英国人女性が滞在します。外交官、商人の妻として同地に居住または旅する女性、宣教、教育、医療などの職業に携わり、インドに新たな世界を求め移住する者、その目的は様々ですが、既に女性教育が進み知的水準も高かったこれらの女性の多くは、近代的な女性の意識で植民地インドにおける女性の諸問題に関わり、新聞・雑誌等のメディアで報告や問題提起を行います。本書はこれら同時代の文献約 180 点の史資料を集め復刻するもので、英国や植民地インドで刊行された英文資料を中心に、雑誌、新聞、パンフレットなどの記事を各巻テーマ別に編集、編者の解説を付します。教育、健康、結婚といった一般的なテーマと合わせ、女児殺し（Female infanticide）、サティー（寡婦焚死）といったインドにおけるジェンダーの問題に真っ向から取り組んだ多数の文献も収録、女性による著述と同時に関する男性側からの主張も併録し、この時代のインドの女性問題の全体像を俯瞰できるよう配慮しています。

今日も解決できていない深刻なテーマを含む本資料集は、大英帝国史、インド女性史等歴史研究の史資料としてだけでなく、現在のジェンダー研究や現代インド研究者の方々も是非ご活用ください。

◆収録文献の一部◆

Volume 1: The Woman Question

Preface / A Note on the Texts / Acknowledgements / Introduction
‘Account of the Zenana of an Asiatic Chief’, The Edinburgh Magazine, or Literary Miscellany (Nov. 1789)
‘Description of Tippoo Sultaun’s Zenana’, The Weekly Entertainer (16 Dec. 1799)
‘Nautch-Girls’, Calcutta Journal 20 October 1819, Selections from the Indian Journals. Vol. I: Calcutta Journal. Calcutta: Firma KL Mukhopadhyay, 1963
Review of WB Hockley’s The Zenana, The Oriental Herald and Journal of General Literature (Jun. 1827)
Emma Roberts, from Scenes and Characteristics of Hindoostan, London: WH Allen, 1835.
＋その他　計 49 文献

Volume 2: Female Infanticide

Edward Moor, from Hindu Infanticide (1811)
John Cormack, ‘Manner of Destroying Female Infants’, ‘Difficulties Experienced by Colonel Walker … in the Abolition of Female Infanticide’
Review of John Cormack’s Account of the Abolition of Female Infanticide in Guzerat, The Literary Panorama (May 1815)
‘Female Infanticide’, from, Selections from the Indian Journals. Vol. II: Calcutta Journal. 1965
‘Female Infanticide’, The Literary Examiner (Oct. 1823)
＋その他　計 16 文献

Volume 3: Sati

JZ Holwell, from Interesting Historical Events, Relative to the Provinces of Bengal and the Empire of Indostan, Part II, London: T. Becket and PA De Hondt (1767)
John Wilson, ‘The Custom of Women Burning themselves with their Husbands Still Practised in India’, The Weekly Miscellany (19 Jan 1778)
‘Narrative of an Hindoo Woman, who lately Burnt herself on the Funeral Pile of her Husband’, The Weekly Entertainer (25 June 1804)
‘Account of an Indian Woman Burning Herself’, Scots Magazine and Edinburgh Literary Miscellany (Mar 1809)
‘Burning of Widows’,‘Horrible Human Sacrifice’,‘Another Sacrifice’, ‘Prevented Sacrifice’from, Selections from the Indian Journals. Vol. I 1963
＋その他　計 25 文献

Volume 4: Education

‘Native Female Education’, Calcutta Gazette 2 May 1825. From, Anil Chandra Das compiled and edited, The Days of John Company: Selections from the Calcutta Gazette 1824-1832.
‘Female Education’, The Friend of India (27 July 1837)
Priscilla Chapman, from Hindoo Female Education (1839)
‘Native Female Education’: Review of Alexander Duff’s The Life and Happy Death of Charlotte Green, Calcutta Review 25 (1855)
Mary Carpenter, On Female Education in India. London: WW Head, 1868
＋その他　計 31 文献

Volume 5: Health and Marriage

‘Marriage of Hindoo Widows’, The Friend of India (7 Dec. 1837)
‘Parsi Marriages’, from, Erskine Perry, Cases Illustrative of Oriental Life, 1853
‘Indian Marriage Ceremonies’, The London Journal (11 Aug. 1860)
‘Indian Marriage Customs’, The London Reader (13 Jun. 1863), 156-7.
WJ Elmslie, ‘On Female Medical Missions to India’, The Indian Female Evangelist 1.5 (Jan. 1873)
＋　その他　計 60 文献 (全 5 巻計 180 文献）

※詳細は⇒ http://www.aplink.co.jp/synapse/4-86166-179-2.html

英国女性の初期旅行記

－ロマン主義時代の記録－　全８巻　残部僅少

Women's Travel Writings: 1750-1850

【編集・解説】Caroline Franklin, University of Swansea, UK

2006 年 5 月刊行　約 3300 頁　ISBN 978-4-901481-94-6　本体セット価￥~~180,000~~-（＋税）　⇒　特価￥90,000-（＋税）

本書の特色

- **18 世紀末から 19 世紀のロマン主義期の英国で刊行された女性の旅行記で、現在入手の困難な貴重文献 6 作を全点完全復刻し集成**
- **「コロニアリズム」「ポスト・コロニアリズム」に関する文化研究の史・資料としても有効**

異国へと旅した女性たちの言説は、「グランド・ツアー」や「ピクチャレスク・ツアー」が広く実践されていた 18 世紀の英国貴族・市民階級の男性社会と一線を画し、社会の「主流」ではなかった女性達の異文化・外部社会へのまなざしであります。今日関心をあつめる「階級、人種、ジェンダー」に関する複合的研究のための一次文献としても多様に活用いただけます。

【収録内容】

第１－２巻

●ヘレン・マライア・ウィリアムズ
『フランス便り』　全２巻

Helen Maria Williams
Letters from France; containing a great variety of information concerning the most important events that have occurred in that country in the years 1790, 1791, 1792, and 1793 ... To which are annexed, the correspondence of Dumourier with Pache, etc., 2 vols. J. Chambers: Dublin, 1794, c. 550pp in total

ロマン主義時代の女性詩人・小説家である作者のフランス革命の記録。革命を熱心に擁護し、恐怖政治時代には投獄もされたウィリムズは、その後もパリに留まり英国へこのレポートを送り続けた。８回に分けて刊行された本書は当時の英国で大きな反響を呼んだ。（２巻に合本された 1794 年の版を収録。）本書に関しては、エリザベス・ボールズの最近の研究書（『美学とジェンダー女性の旅行記と美の言説』（長野順子訳、ありな書房）が「ピクチャレスクの政治化」という視点から先鋭的に解読している。

第３巻

●アンナ・マリア・ファルコンブリッジ
『シエラレオネ川への２度の旅』

A.M. Falconbridge
Narrative of two voyages to the River Sierra Leone, during the years 1791-2-3, 2nd edition, Higham: London, 1802, 279pp

著者は、反奴隷貿易の活動家として知られ後にシエラレオネの英総督にもなったアレクサンダー・ファルコンブリッジの妻。夫とともに滞在した植民地での旅の記録。英国女性の西アフリカ旅行記の嚆矢。

●メアリー・シェリー
『フランス、スイス、オランダでの６週間の旅』

Mary Wollstonecraft Shelley, with a preface by Percy Bysshe Shelley
History of a six weeks' tour through a part of France, Switzerland, Germany, and Holland: with letters [by Percy Bysshe Shelley] descriptive of a sail round the Lake of Geneva, and of the Glaciers of Chamouni. (Mont Blanc. Lines written in the Vale of Chamouni [by Percy Bysshe Shelley].) 1817, pp.183

『フランケンシュタイン』で有名なメアリー・シェリーが、1814 年にパーシー・シェリーとヨーロッパに駆け落ちした際の各地での旅の記録。母メアリー・ウルストンクラフトの著書 Letters Written during a Short Residence in Sweden, Norway, and Denmark (1796) をモデルにしたと言われる。

第４巻

●イライザ・フェイ
『インドからの手紙』

Mrs. Eliza Fay
Original Letters from India; containing a narrative of a journey through Egypt, and the author's imprisonment at Calicut by Hyder Ally. To which is added an abstract of three subsequent voyages to India, Calcutta, 1821, 404pp

E. M. フォスターが "A Passage to India" 執筆の参考とし、後にフォスター自身が編集、出版したことで知られる書簡集のインドで刊行されたオリジナル版。18 世紀末には、英国から女性が新たな人生を求め植民地インドへと旅を始め、彼女たちの多くが書簡形式で植民地の記録を残している。裁縫婦や教師などの職を経験したフェイも 1779 年から 1816 年の間、４回にわたりインドへと旅し、この人間性にあふれる描写を残した。フォスターは 'a work of art' と本書を絶賛した。

第５巻

●ジェミーマ・キンダスリー
『テネリフェ島、ブラジル、喜望峰、東インド諸島からの手紙』

Jemima Kindersley
Letters from the Island of Tenerife, Brazil, Cape of Good Hope and the East Indies, London, 1777, 301pp

夫とともに各地を旅し、記録を残した著者の中南米での旅行記。奴隷貿易に関する彼女の描写は英国内で衝撃を与えたとされる。

第６－８巻

●シドニー・オウェンソン［モーガン夫人］
『イタリア』　全３巻

Sydney Owenson, Lady Morgan
Italy, London: Henry Colburn & Co., 1821, c. 1500pp in total

19 世紀前半に人気を博したアイルランド女性小説家のイタリア旅行記。ラディカルな政治思想を持っていた著者の本書（およびその前作 "France"）は保守的な批評家や政府からは激しく攻撃されたが、一方ロマン派文学者達は彼女を熱く支持し、なかでもバイロンはアイルランドの詩人 Thomas Moore への手紙のなかで、"Her work is fearless and excellent on the subject of Italy; pray tell her so. I know the country. I wish she had fallen in with me; I could have told her a thing or two that would have confirmed her position." と本書を称している。

19 世紀英国家庭と子どものための職業読本　全 6 巻＋別冊解説

Book of Trades: A Collection of the Nineteenth-Century Handbooks

【編集・解説】小林章夫

2008 年 11 月刊行　A5 判・2,450 頁（図版白黒多数）　ISBN 978-4-902454-48-2

本体セット価 ~~￥128,000-~~（＋税）　⇒　特価￥64,000-（＋税）

本書の特色

- ●産業革命の広がりとともに誕生した、様々な近代的職業に関する子ども向けガイドや大衆向けの絵入り事典など 7 点の復刻集成。
- ●時代とともに細かく分業化していく職業や使用される道具、そして商業製品などを、これから子ども、学生そして一般の人々に多くの図版とともに紹介した、ヴィクトリア朝時代の多様な文献集。
- ●ロンドンそしてグラスゴーで出版された最初期の稀覯ガイド本から、ヴィクトリア朝最盛期にいたる半世紀をカバー。

◆収録文献内容◆

VOL. 1:
The Book of English Trades and Library of the Useful Arts, A New Edition Enlarged, with 500 Questions for the Exercise of Students, London: Richard Phillips & Co., 1824, c.480pp.

VOL. 2:
The Book of Trades or Circle of the Useful Arts, Glasgow: Richard Griffin & Co., 1835, c.370pp.

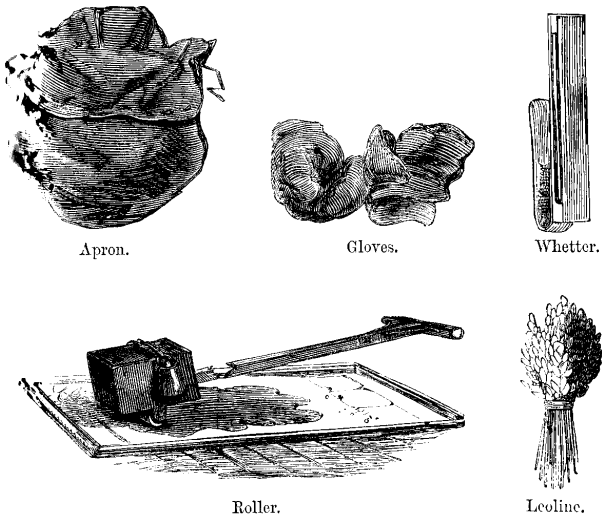
VOL. 3:
The Handbook of Trade and Commerce or, A Concise Dictionary of the Terms and Principles of Trade, Commerce, Manufactures, Commercial and Common Law, etc., with Tables of Money, Weights, and Measures, New Edition., London: Darton and Clark, 1842, c.330pp.

VOL. 4:
The Dictionary of Trade, Commerce, and Navigation: Explanatory of The Objects, Terms, Statistics, Laws and Regulations of the Excise, Customs, Public Affairs, Banking, Monies, Weights, Shipping, Fisheries, Imports, Exports, Book-Keeping, Commercial Geography, National Flags, and the General Affairs of Business Corrected up to the Latest Period, London: Brittain & Paternoster, 1844, c.390pp.

VOL. 5:
The Book of Trades, Arts, & Professions, relative to Food, Clothing, Shelter, Travelling and Ornament for the Use of the Young by Peter Paley, London: Darton and Co., 1855, c.125pp.

The Boy's Book of Trades and the Tools Used in Them, London: George Routledge & Sons, 1866, c.320pp.

VOL. 6:
The Book of Trades: A Circle of the Arts and Manufactures, Adapted for Schools, Colleges and Families, New Edition, by James Wylede, London & Edinburgh: Gall & Inglis, 1878, c.414pp.



発行元：Edition Synapse
（エディション・シナプス）
〒 101-0014　東京都千代田区永田町 2-17-5-201
Tel: 03-6257-1030　Fax: 03-5521-0026
http: //www.aplink.co.jp/synapse